

薬剤耐性菌対策

日時

2022 **6/5** 日

12:00~12:50

場所

第9会場

都ホテル岐阜長良川

2F 連A (さざなみ)

座長

賀来 満夫 先生

東北医科薬科大学 医学部 感染症学教室

演者

石和田 稔彦 先生 『薬剤耐性菌の現状』

千葉大学真菌医学研究センター 感染症制御分野

山岸 由佳 先生 『RaST-TASの使用経験』

高知大学医学部 臨床感染症学講座

高知大学医学部附属病院 感染症科

同 感染管理部

本教育セミナーは整理券制となっております。

配布日時 6月5日(日) 7:30~11:30 配布場所 長良川国際場 1F ホワイエ

※ 整理券は本セミナー開始と同時に無効となりますので、ご注意ください。

本会では現地開催とWEB開催を併用したハイブリッド方式で開催いたします。

視聴には第70回日本化学療法学会総会HPより参加登録が必要となります。

<https://med-gakkai.jp/jsc2022/>

<共催> 第70回日本化学療法学会総会

株式会社フコク

「RaST-TAS」は株式会社フコクの登録商標です。

ES25-1 「薬剤耐性菌の現状」

千葉大学真菌医学研究センター 感染症制御分野

石和田 稔彦 先生

AMRは重要な公衆衛生上の問題と認識されており、2016年にAMR対策アクションプランが作成され、現在まで様々な対策が行われている。個々の薬剤耐性細菌に関してみると、日本は他の先進国とは異なるユニークな薬剤耐性パターンを示すことも多く、独自のサーベイランス体制の構築が望まれる。その意味で、3学会で行っているサーベイランス事業は重要なものと位置づけられる。薬剤耐性菌の早期検出は、抗菌薬適正使用に直結するため、今後益々その重要性が増すことが予想される。本講演では、日本国内のAMR対策の現状と、薬剤耐性菌の検出状況について3学会合同サーベイランス事業の結果を基に概説したい。

ES25-2 「RaST-TASの使用経験」

高知大学医学部 臨床感染症学講座
高知大学医学部附属病院 感染症科
同 感染管理部

山岸 由佳 先生

抗菌薬感受性測定 of 迅速化・耐性因子の特定は往年の課題となってきた。薬剤耐性には複数の因子が関わっており、それらの遺伝子や蛋白質を検出するにはPCRやイムノクロマトグラフィー等が用いられている。近年新たに、大阪大学の松本らによって考案されたDSTM法を用いたRaST-TASは、抗菌薬に対する菌の反応を濁度ではなく形態変化という表現型を指標に、専用マイクロ流路チップと位相差顕微鏡を用いて観察することで迅速に感受性を判別可能である。中でも、 β -ラクタム系薬によるグラム陰性菌の形態変化は特徴的で判別しやすく、阻害剤との組み合わせで耐性菌の産生する β -ラクタマーゼの種類を推定可能である。血液培養陽性検体を遠心処理してRaST-TASで検査する手法が考案されたため、培養陽性となった当日に対象菌種が産生する β -ラクタマーゼの結果を得ることができる本法の有用性が期待される。